

# 平和教育 小学校



小学校・中学校・高校  
社会・総合・道徳  
長崎の鐘は鳴り続ける

🕒 43分

## 永井隆の生き様から、 平和学習の第一歩をはじめよう

修学旅行に向けての学習がスタート。「どんなコースを回るの」「コースを回るだけで平和教育になるの」「平和教育って実感がわかないよ」。この『長崎の鐘は鳴り続ける』という番組。6年生の歴史は人物学習です。人物を中心とした番組から平和教育を行うことで、修学旅行に行く際に、人物が活動した場所、過ごした空間を意識し、追体験から実感を伴う学びへとつなげることができます。

### 番組活用のポイント

#### 平和教育の第一歩



神奈川県横浜市立東中田小学校  
教諭 小森竜也

「今年も、平和教育に取り組みたいけど、どのように調べると子どもたちの学びをより効果的なものにできるだろうか。」「漠然と見に行くのではなく、見るためのポイントを明確にした学習活動にしたい。」そんな時、学習の視点の一つとして人物学習があります。この教材『長崎の鐘は鳴り続ける』から、永井隆博士や周辺人物の思い、原爆の被害について、興味深く引き込んでいきます。永井隆博士の生き様から平和を考えていくことで、ポイントを絞った学習を行うことができます。

#### 永井隆の平和への思いや苦悩を追体験

この番組の中で、永井隆の平和についての思いを描いています。元々は医師として活躍していましたが、白血病となり病床の中で本を書き続けています。また、大事な人を救えなかったことを苦悩したことにもふれており、ただ平和に向けて活動しただけでなく、活動の中での苦悩を追体験することができます。



長崎市上野町  
如己堂

#### 人の生き様を追体験

修学旅行でコースを回る時、大抵の場合は調べた通りなのかをなぞって終わる場合が多いようです。この番組では、永井隆博士が関わった場所について多くの説明が出てきます。番組視聴を通し、永井隆博士が活動した場所、永井隆博士の著作に出てくる場所を意識させることで、コースを回る際に永井隆博士の生き様を追体験し、より目的をもって見ることができます。

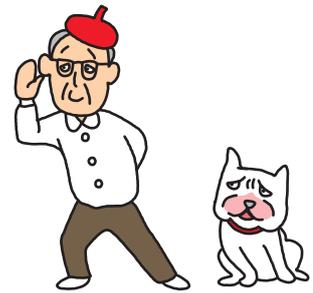


夜も永井博士は平和について思索した

学習展開例

平和教育

	学習活動	指導上の留意点
導入	1. 戦争や原爆について知っていることを話し合う。	◎多くの意見が出るように、児童の意見に対して教師は見解を述べない。
展開	2. 番組『長崎の鐘は鳴り続ける』を視聴する。 <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">視聴</div> 必要であればワークシートにメモを取りながら視聴する。  3. ワークシートに感想や疑問を書く。  4. 番組を見ての感想や疑問を発表し、意見を交流する。	◎番組を見る前に番組を見る上でのポイントを確認すると良い。 例) 永井博士の業績 平和に対する思いや大切な人を救えなかったことへの苦悩など。 ◎視聴は全てではなく15分程度にとどめる。 ◎感想だけで終わらずに、疑問や「どうして?」と考えたことも書けるように、声をかける。 ◎発表内容を画用紙に書いて、黒板に貼っていく。似たような意見をつなぎ、永井博士の平和に対する思いや大切な人を救えなかったことへの苦悩についてまとめていく。
まとめ	5. 学習課題を設定する。 例) 修学旅行で、永井博士のことを調べるためのコースを決めよう。	◎番組で出てきた地名や施設を確認かめて、永井博士と長崎の関わりに関して興味や関心をもてるようにする。



苦悩の中の永井隆博士



病の中で家族を思う



原爆被害を受けた浦上天主堂



著作のきっかけになった「長崎の鐘」

より効果的に番組を活用するために

この指導案では、平和学習の第一歩として番組を視聴し、長崎における平和学習をはじめています。長崎の地図と見比べながら授業を進めると、自分たちがどこに行き、何を学ぶのかを、把握しやすくなります。

本時指導案では45分の構成で、番組の一部分を見せるとしてはいますが、観点を明確にして、90分の扱いにし、全てを視聴する方法もあります。この方法だと、番組の流れに沿って学習に取り組むことができます。また、事前に平和に関する調べ学習を行い、戦争や平和について調べた後に番組を見て、永井隆博士が如己堂でどのような思いをもって著作を進めたのかを考える授業もできます。

また、永井隆博士の生き様をロールプレイングなどで追体験し、平和の大切さだけでなく、大切な人を失うという点から、自分の周りにいる人たちが戦争で亡くなること、その大切な人々はかけがえのない存在という点から、道徳の授業でも活用することができます。また、6年生社会での戦争単元において、反戦平和のために本を書き続けた人物として、人物学習で取り上げることもできます。